

## 13 ふるさとの宮忘じ難く候

平成28年4月29日の午後、大井神社を訪ねた二人のご婦人がありました。母親の法事で東京から帰郷したが、幼いとき遊んだお宮が懐かしくお詣りに来たとのことでした。

しかし、時代の波に翻弄され、再びお詣りの叶わぬ人もいました。大井東新町の元成政右衛門さんです。

話は明治34年4月29日に遡ります。この日、皇室に迪宮（後の昭和天皇）が誕生します。神社では、これを記念して、拝殿の前庭に植樹することで衆議一決。その年の12月、今に残る玉石柵に囲まれた二本の名木が目出度くお披露目されました。政右衛門さんのお家は、大井村500余戸の中でも素封家です。「橘？」を囲む石柱の1本にその名を刻むのであります。



しかしあろう事か、近郷のお宮を合祀した明治42年から間もない44年1月、神社は、この石柵を残し丸焼けになります。正に、神無月ならぬ神無村です。しかし、氏子の懸命の努力で大正4年、本殿等の改築が成りました。ここでも、政右衛門さんは、本殿を囲む玉垣の太柱にその名を刻むのです。



時に日本経済は、第一次世界大戦（大正3～7年）後の経済恐慌、大正12年の関東大震災、昭和2年の銀行取り付け騒動など、不況のどん底に向けてまっしぐらという状況にありました。

昭和3年11月、昭和天皇即位の大礼（御大典）が行われます。これを記念して神社では参道を付け替えて石段を整備します。その頃、さしもの政右衛門さんの身代も陰りはじめののですが、それでも寄附者芳名碑にその名を連ねます。政右衛門さん最後の意地でした。



しかし、昭和5年には経済恐慌が追い打ちをかけ、大井村でも4戸に1人とも言われるほどアメリカ移民が加速度的に増加する有様です。加えて、これを鼓舞するかのごとく、大井の伊丹浅五郎さん、栗井の中田常太郎さんなど、先発渡米組の成功談が紹介されます。

既に人生の晩節にある政右衛門さんでしたが、ついに、裸一貫万里の波濤を越えアメリカ行きを決意するのです。そして、政右衛門さんの名は、お宮の境内から消えました。



移民の多くは、線路工夫、白人家庭の従僕、農園手伝いで蓄財し身を立てています。政右衛門さんは、どんな仕事に就いたでしょう。想像を絶する苦労があったはずですが、そして数えること幾星霜。ある日、神主さんにアメリカからプレゼントが届きました。50円50銭也、それは血縁の佐十郎さんと連名の神社への寄付金でした。ふるさとの宮忘じ難く候。政右衛門さんは再びお宮に帰りました。今では、宮山の麓で少しかしぎながら参詣者を迎えてくれます。

右は、伊丹淺五郎さんの寄付金碑、一金60円とあります。当然ながら、政右衛門さんより古いものです。

下の記事は、大正10年4月発行の「在米岡山県人発展史」に成功者として紹介された伊丹淺五郎さんとその家族。



在米岡山県人発展史



(十二歳) 花子、富貴子ありて家庭頗る平和圓滿なり。

一一三

洋服附屬品販賣業

伊丹淺五郎君

(原籍)岡山縣吉備郡大井村字大井  
(現住所)羅府北メイン街E1111  
422 N. Main St., Los Angeles, Cal.

君は明治三十三年を以て英領美港に上陸後三箇年間で働いたつゝ、ありしが、偶然日露戰役起るに際し召集されて歸朝し三十九年に至りミセス同伴再渡航し羅府に來れり、同四十一年二月よりセコンド街に洋食店を経営すると三年間、其後ブラザ街に移轉し大正七年八月まで斯業を繼續し來りしのみならず其他ルーミング、ハウスマ突場等をも兼業したり、尙ほ大正二年より現在の處に洋服竝に附屬品販賣業を開始せしが業務逐日繁忙を加ふるが爲め他の兼業は一時之を休み目下此事業に全力を傾注し居れり、君資性溫厚にして篤實屢々岡山縣人會評議員に推選せられて德望あり、嚴父傳五郎君(當年七十有六)は六年前渡航一ヶ年滯米の後歸朝す、長男秀男君(十四歳)を始め勇作、武夫、長女綠

※ なお、政右衛門さんについては、家運、渡米時期、帰朝の有無など不確かな点があります。  
大正3年、在米岡山県人560人中、吉備郡出身者229人、御津郡同163人。  
昭和3年海外渡航者から郷土送金額計 10, 251円。(いずれも岡山県統計年報)